

(1) 2組の実数 $a_1, a_2, a_3, \dots, a_n$ と $b_1, b_2, b_3, \dots, b_n$ が与えられたとき

$$c_k = \left(\sum_{i=1}^k a_i^2 \right) \left(\sum_{i=1}^k b_i^2 \right) - \left(\sum_{i=1}^k a_i b_i \right)^2, \quad k = 1, 2, 3, \dots, n$$

とおく. $c_{k+1} - c_k$ の符号を調べ, 不等式

$$\left(\sum_{i=1}^n a_i b_i \right)^2 \leq \left(\sum_{i=1}^n a_i^2 \right) \left(\sum_{i=1}^n b_i^2 \right)$$

を証明せよ. また, 等号の成立する条件を述べよ.

(2) 与えられた2つの関数 $f(x)$ と $g(x)$ ($a \leq x \leq b$) に対して

$$h(x) = \left(\int_a^x (f(t))^2 dt \right) \left(\int_a^x (g(t))^2 dt \right) - \left(\int_a^x f(t)g(t) dt \right)^2$$

とおく. 導関数 $h'(x)$ ($a < x < b$) の符号を調べ, 不等式

$$\left(\int_a^b f(t)g(t) dt \right)^2 \leq \left(\int_a^b (f(t))^2 dt \right) \left(\int_a^b (g(t))^2 dt \right)$$

を証明せよ. また, 等号の成立する条件を述べよ.

(88 名古屋市大 医 2)

【答】

(1) 証明は略. 等号が成立する条件は $a_1 : b_1 = a_2 : b_2 = \dots = a_n : b_n$

(2) 証明は略. 等号が成立する条件は「つねに $f(x) = 0$ 」または「つねに $g(x) = kf(x)$ (k は定数)」

【解答】

(1) $c_k = \left(\sum_{i=1}^k a_i^2 \right) \left(\sum_{i=1}^k b_i^2 \right) - \left(\sum_{i=1}^k a_i b_i \right)^2$ より

$$\begin{aligned} c_{k+1} &= \left\{ \left(\sum_{i=1}^k a_i^2 \right) + a_{k+1}^2 \right\} \left\{ \left(\sum_{i=1}^k b_i^2 \right) + b_{k+1}^2 \right\} - \left\{ \left(\sum_{i=1}^k a_i b_i \right) + a_{k+1} b_{k+1} \right\}^2 \\ &= \left(\sum_{i=1}^k a_i^2 \right) \left(\sum_{i=1}^k b_i^2 \right) + a_{k+1}^2 \sum_{i=1}^k b_i^2 + b_{k+1}^2 \sum_{i=1}^k a_i^2 + a_{k+1}^2 b_{k+1}^2 \\ &\quad - \left\{ \left(\sum_{i=1}^k a_i b_i \right)^2 + 2a_{k+1} b_{k+1} \left(\sum_{i=1}^k a_i b_i \right) + a_{k+1}^2 b_{k+1}^2 \right\} \\ &= \left(\sum_{i=1}^k a_i^2 \right) \left(\sum_{i=1}^k b_i^2 \right) - \left(\sum_{i=1}^k a_i b_i \right)^2 + \sum_{i=1}^k (a_{k+1}^2 b_i^2 - 2a_{k+1} b_{k+1} a_i b_i + b_{k+1}^2 a_i^2) \\ &= c_k + \sum_{i=1}^k (a_{k+1} b_i - b_{k+1} a_i)^2 \\ &\therefore c_{k+1} - c_k = \sum_{i=1}^k (a_{k+1} b_i - b_{k+1} a_i)^2 \geq 0 \\ &\therefore c_{k+1} - c_k \geq 0 \end{aligned}$$

である.

$$c_1 = (a_1)^2 (b_1)^2 - (a_1 b_1)^2 = 0 \text{ であり}$$

$$c_n \geq c_{n-1} \geq \dots \geq c_1 = 0 \quad \therefore c_n \geq 0$$

が成り立つ。よって、不等式

$$\left(\sum_{i=1}^n a_i b_i\right)^2 \leq \left(\sum_{i=1}^n a_i^2\right) \left(\sum_{i=1}^n b_i^2\right) \quad (n \geq 1)$$

は成り立つ。

……(証明終わり)

また

$$a_{k+1} b_i = b_{k+1} a_i \iff a_i : b_i = a_{k+1} : b_{k+1}$$

であるから、等号の成立する条件は

$$\mathbf{a_1 : b_1 = a_2 : b_2 = \dots = a_n : b_n} \quad \dots\dots(\text{答})$$

である。

(2) $h(x) = \left(\int_a^x (f(t))^2 dt\right) \left(\int_a^x (g(t))^2 dt\right) - \left(\int_a^x f(t)g(t) dt\right)^2$ ($a \leq x \leq b$) を、 $a < x < b$ の範囲で微分する。

$$\begin{aligned} h'(x) &= (f(x))^2 \cdot \int_a^x (g(t))^2 dt + \int_a^x (f(t))^2 dt \cdot (g(x))^2 - 2 \int_a^x f(t)g(t) dt \cdot (f(x)g(x)) \\ &= \int_a^x (f(x)g(t))^2 dt + \int_a^x (g(x)f(t))^2 dt - 2 \int_a^x f(x)g(x)f(t)g(t) dt \\ &= \int_a^x (f(x)g(t) - g(x)f(t))^2 dt \\ &\geq 0 \quad (\because (\quad)^2 \geq 0, x \geq a) \end{aligned}$$

したがって、 $a \leq x \leq b$ において $h(x)$ は非減少であり

$$h(b) \geq h(x) \geq h(a) = 0 \quad \therefore h(b) \geq 0$$

が成り立つ。よって、不等式

$$\left(\int_a^b f(t)g(t)dt\right)^2 \leq \left(\int_a^b (f(t))^2 dt\right) \left(\int_a^b (g(t))^2 dt\right)$$

は成り立つ。

……(証明終わり)

等号が成立する条件を求める。

(i) $a \leq x \leq b$ において、「つねに $f(x) = 0$ 」または「つねに $g(x) = 0$ 」であるとき、 $a \leq x \leq b$ を満たすすべての x に対し $h(x) = 0$ であり、 $h(b) = 0$ である。

よって、与えられた不等式は等式として成り立つ。

(ii) $a \leq x \leq b$ において、「 $f(x_1) \neq 0$ となる x_1 が存在し」かつ「 $g(x_2) \neq 0$ となる x_2 が存在する」ときを考える。

このとき、等号 $h(x) = 0$ が成立する条件は、 $a < x < b$ を満たす x に対し $h'(x) = 0$ 、すなわち

$$f(x)g(t) - g(x)f(t) = 0 \quad \dots\dots (*)$$

が成り立つことが必要である。

(ア) $f(x_1) \neq 0$ かつ $g(x_2) \neq 0$ となる x_1, x_2 が a のみのとき

$a < x \leq b$ ではつねに $f(x) = 0$ かつ $g(x) = 0$ であり、 $h(x) = 0$ となる。

与えられた不等式は等式として成り立つ。

(イ) $f(x_1) \neq 0$ または $g(x_2) \neq 0$ を満たす x_1, x_2 のうちの少なくとも一方は a より大きいとき

$$(*) \iff \begin{cases} x_1 > a \text{ のとき} & g(t) = \frac{g(x_1)}{f(x_1)} f(t) \\ x_2 > a \text{ のとき} & f(t) = \frac{f(x_2)}{g(x_2)} g(t) \end{cases}$$

となる. $x_1 > a$ のときも同じく論証されるので, $x_2 > a$ のときを考えることにする. 定数 k を用いて $a < t \leq x_2$ を満たすすべての t について $f(t) = kg(t)$ となることが必要である.

$a \leq x \leq b$ を満たすすべての x について

$$f(x) = kg(x) \quad (k \text{ は定数})$$

とおくと, (*) は

$$f(x) \cdot g(t) - g(x)f(t) = kg(x) \cdot g(t) - g(x) \cdot kg(t) = 0$$

が成り立つから, $f(x) = kg(x)$ であることが必要十分である.

(ア) のときは, $f(a) = kg(a)$ ($\neq 0$) となる k が存在し, $a < x \leq b$ のとき $f(x) = g(x) = 0$ であるから, $a \leq x \leq b$ のとき $f(x) = kg(x)$ が成り立つ. したがって, (イ) は (ア) を含む.

以上 (i), (ii) より, 等号が成立する条件は

$a \leq x \leq b$ において

「つねに $f(x) = 0$ 」または「つねに $g(x) = 0$ 」

または「つねに $f(x) = kg(x)$ (k は定数)」

が成り立つことである. これは $k = 0$ のとき $f(x) = kg(x)$ は「つねに $f(x) = 0$ 」となるから, 等号の成立条件は

$a \leq x \leq b$ において

「つねに $g(x) = 0$ 」または「つねに $f(x) = kg(x)$ (k は定数)」 ……(答)

としてまとめることができる.

- 等号の成立条件を

$a \leq x \leq b$ において

「つねに $f(x) = 0$ 」または「つねに $g(x) = kf(x)$ (k は定数)」

としてもよい.

- この不等式は積分型のコーシー・シュワルツの不等式とよばれるものである. 実数 a, b, c, x, y, z についてのコーシー・シュワルツの不等式

$$(ax + by + cz)^2 \leq (a^2 + b^2 + c^2)(x^2 + y^2 + z^2)$$

の証明のひとつとして, u についての不等式

$$(au - x)^2 + (bu - y)^2 + (cu - z)^2 \geq 0$$

を利用するものがあつた. 積分型のコーシー・シュワルツの不等式でもこの解法を用いることができる. すなわち, u についての不等式

$$(uf(t) + g(t))^2 \geq 0$$

を利用する. $a \leq b$ のとき, a から b まで t で積分すると

$$\int_a^b (uf(t) + g(t))^2 dt \geq 0 \quad \dots\dots \textcircled{7}$$

$$\therefore u^2 \int_a^b (f(t))^2 dt + 2u \int_a^b f(t)g(t) dt + \int_a^b (g(t))^2 dt \geq 0 \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

がつねに成り立つ.

- (i) $\int_a^b \{f(t)\}^2 dx = 0$ すなわち $a \leq x \leq b$ において「つねに $f(t) = 0$ 」のとき, 目標の不等式は等式として成り立つ.

- (ii) $\int_a^b \{f(t)\}^2 dt \neq 0$ のとき, $\int_a^b \{f(t)\}^2 dt > 0$ であり, u についての 2 次不等式
 ⑦ はつねに成り立つから, (判別式) ≤ 0 が成り立つ. すなわち

$$\left(\int_a^b f(t)g(t) dt\right)^2 - \left(\int_a^b (f(t))^2 dt\right) \left(\int_a^b (g(t))^2 dt\right) \leq 0$$

$$\therefore \left(\int_a^b f(t)g(t) dt\right)^2 \leq \left(\int_a^b (f(t))^2 dt\right) \left(\int_a^b (g(t))^2 dt\right)$$

が成り立つ.

等号が成立する条件は

- (i) $\int_a^b \{f(t)\}^2 dx = 0$ のとき

「つねに $f(t) = 0$ 」であり, 目標の不等式は等号が成り立つ.

- (ii) $\int_a^b \{f(t)\}^2 dx \neq 0$ のとき

不等式 ⑦ により等号が成り立つ条件は

$$uf(t) + g(t) = 0 \quad \therefore g(t) = -uf(t)$$

を満たす実数 u が存在することである. すなわち

$$g(t) = kf(t) \quad (k (= -u) \text{ は定数})$$

と表されることである.

以上, (i), (ii) より, 等号が成立する条件は

$$a \leq x \leq b \text{ において}$$

$$\text{「つねに } f(x) = 0 \text{」 または 「つねに } g(x) = kf(x) \text{ (} k \text{ は定数)」}$$

が成り立つことである.